



議会図書室からのお知らせ

今月の新着図書
R6年7月（一般用）

『文化的コモンズ～文化施設がつくる交響圏』 文化施設

佐々木秀彦【著】/みすず書房 (2024/4)



地域住民が自由に参加できる、文化的営みの総体「文化的コモンズ」。博物館・図書館・公民館等を拠点とした文化活動が、自治を育み、地域づくりに貢献することが期待されている。そんな「文化的コモンズ」の今後の発展を実現させる方策を探る書。

『夜更かしの社会史～安眠と不眠の日本近現代』 社会史

近森高明・右田裕規【編】/吉川弘文館 (2024/2)



夜も活動し続ける現代人。私たちは「眠り」についてどのような認識や習慣を持ち、それにまつわる商品を生み出してきたのだろうか？ その変遷を追い、「眠ること」と「眠らないこと」を同時に要請する社会の「生活と睡眠の関係史」に迫る！

『メディアエコロジー～端末市民のゆくえ』 メディア論

桂英史【著】/左右社 (2024/1)



「便利」で「簡単」なデジタル技術がもたらした資本主義の規模と速度に、もはや人間の知覚は追いつけず、世界は途方に暮れている。SNS・広告モデルが極限まで発展し、行動・欲望・表現までが支配された日常を変えることはできるのか？

『全員“カモ”～「ズルい人」がはびこるこの世界で、まっとうな思考を身につける方法 世界最高学府で教える人心操作の授業』 話題

ダニエル＝シモンズ 他【編著】/東洋経済新報社 (2024/2)



巧妙なマーケティング、偽物売る業者、怪しい健康情報等の手口にだまされることなく、自分で意志決定できる「思考スキル」のマスター方法を伝える。「見えないゴリラ実験動画」で話題の著者による、自ら「カモ」とならないための認知心理学書！

『教育DXと変わり始めた学校～激動する公教育の現在地』 教育DX

佐藤明彦【著】/岩波書店 (2024/4)



悪い状況ばかりが注目を集める学校教育。しかし「デジタルツール導入による学習の变革」というポジティブな変化も起きている。公教育だけでなく、社会全体にも大きな影響をもたらさうる「教育変革の現在と展望」を探るブックレット。

『平和をつくる方法～ふつうの人たちのすごい戦略』 国際問題

セブリール＝オトセール【著】/柏書房 (2023/12)



持続可能な平和を築くことは可能なのか？ 可能ならばその方法とは？ 住民主導の草の根の取組にこそ暴力を止めるヒントがあり、コミュニティ内での対立の解決に役立つと本書は語る。暴力を止め、平和を始めるための実践的ガイド。

『ツキノワグマの掌を食べたい！～猟師飯から本格フレンチまでジビエ探食記』 鳥獣害

北尾トコ【著】/山と溪谷社 (2024/3)



「クマの掌は何の味に似てる？」「被害獣のアライグマは食べられる？」ノンフィクションライターである著者が、狩猟・有害鳥獣駆除で得た30種のジビエを食べまくる！ 鳥獣被害に悩む地域が、ジビエの利用により活性化することを期待する1冊！

『「日本に性教育はなかった」と言う前に～ブームとバッシングのあいだで考える』 性教育

堀川修平【著】/柏書房 (2023/7)



今度こそ、あらゆる子どもに性教育を届けるために！ 戦後日本で性教育をめぐるバッシングがあった時、教員、社会の人々は、何をして何をしなかったのか？ 気鋭の教育学者がその歴史をひもとき、私たちにできることとすべきでないことを考える1冊。

『ジェンダー史10講』 ジェンダー

姫岡とし子【著】/岩波書店 (2024/2)



暗黙のうちに「男性主体」で語られてきた歴史が、女性史研究やジェンダー概念による認識転換により見直され始めている！ 家族・政治・福祉・労働・戦争等の分野で、女性史・ジェンダー史が歴史の見方をいかに刷新してきたかを論じる書！

トピックス：「地域づくり・移住・定住」に関する書籍

新着

『移動縁が変える地域社会 ～関係人口を超えて』

敷田麻実・森重昌之 他【編著】/水曜社 (2023/12)



移住者たちが期待をもって地域に迎え入れられ始めている。「移動縁」による社会の在り方を各地の事例を元に分析。「移動者と地域社会との新しい関係性」をまちづくりに生かすための1冊。

『関係人口の社会学 ～人口減少時代の地域再生』

田中輝美【著】/大阪大学出版会 (2021/4)



「住む人が減ると、地域は再生できないのか？」関係人口を社会学の見地から定義し、その役割を論じる。関係人口を位置づけ直し、人口減少時代の地域再生の方向性を示す。

雑誌

『ソトコト 2023年3月号 ～関係人口入門2023』

竹橋書店 (2023/3)



「観光以上、移住未滿の第三の人口」と称される関係人口。「人口が減る地域で関係人口ができることとは？」「関係人口を受け入れる地域の心構えは？」などの疑問に実例で答える。

雑誌

『ソトコト 2024年5月号 ～特集 ニュー・移住スタイル』

竹橋書店 (2024/4)



「移住」というシフトチェンジが暮らしの選択肢の定番となりつつある現在。新しい移住の形＝「ニュー・移住」で人生を豊かにしていく日本全国の方々の注目のスタイルを紹介！

『ワーケーション企画入門 ～選ばれる地域になるための受け入れ ノウハウ』

松下慶太【著】/学芸出版社 (2022/4)



観光振興、移住促進につながると期待の「ワーケーション」。実施企業や労働者は何を求めているのか？その疑問に答え、ワーケーション企画に必要なプロセス、マインドセットを解説。

『過疎再生～奇跡を起こすまちづくり 人口400人の石見銀山に若者たちが移住する理由』

松場登美【著】/小学館 (2021/10)



人口400人。駅はなく、バスは1日数便。経済成長から取り残された山間の町、石見銀山はなぜ再生できたのか？「足元の宝」を見つけ、事業や町づくりに繋げた40年間の活動を振り返る。

『地方創生先駆者モデル ～「共助」が生み出す新たな戦略』

地方創生先駆者会議【監修】EYストラテジー・アンド・コンサルティング【著】/中央経済社 (2023/10)



属人的ではない地方創生の新たなスタンダードとは？若者が地方に魅力を感じる取組やヒントを探る。「ウェルビーイング」と「ソーシャルベンチャー」を主役に据えた地方創生の指南書。

『NIPPONIA地域再生ビジネス ～古民家再生から始まる持続可能な暮らしと営み』

藤原岳史【著】/プレジデント社 (2022/10)



“懐かしくて、新しい”分散型エリア開発事業とは？まちづくり事業「NIPPONIA」についてのノウハウと、その事業を通して得た、地域で仕事をするとき大事なポイントや必要な考え方を、実例を交えまとめた書。